

方言

日本語・中国語・韓国語は、隣接する地域で話される言葉ですが、大きな違いがあり、通じ合うことはほとんどできません。

日本という地域に限っても、言葉は、本土と琉球（沖縄）とに大きく分かれ、さらに、本土は東部・西部・九州に分けられます。話される言葉は、ここでも地域ごとに少しずつ異なっています。ただし、中国語や韓国語と日本語との間にあるような大きな違いはないため、なんとか通じ合うことができます。このような地域の言葉が方言です。

地域ごとに隣接する地域同士が通じ合える言葉を持っています。これが地域共通語です。日本という地域の全体で通じ合える言葉が全国共通語です。

地球規模での共通語は、まだ、ありません。ザメンホフがエスペラントを創案しましたが、全世界に普及するには至っていません。多くの地域に通じる言葉としては、今のところ英語が万国共通語の役割を果たしています。

日本では、本土の東部方言である東京語が全国共通語の役割を果たしています。

生まれ育った土地を離れて他の地に行くと、その地の言葉

が自分の身につけている言葉とは違うことに気づくことがあります。母音の微妙な違い、イントネーションやアクセントの違いなど、音声面の違いが最初で、聞いているうちに、知らない語のあることも分かってきます。

旅人としてではなく、その土地で暮らすようになると、その土地の暮らしに根差したその土地の言葉を身につけるようになります。そして、その土地の言葉に慣れ親しんで毎日の生活を送られるのですが、ふと、生まれ育った土地の言葉を感じ起す時があります。その言葉と共に、その言葉を用いていた人人が思い起こされるのでしょうか。

ふるさとの訛なつかし

停車場の人ごみの中に

それを聴きにゆく

（石川啄木「握の砂」煙二）

広く多くの人々と付き合うには、全国共通語を身につけなければなりません。全国共通語だけでなく、生まれ育った土地の言葉を持っている人は、二重に恵まれているとも言えることができます。

【注】ザメンホフ 十九世紀生まれのポーランドの平和主義者。国際語エスペラントを考案し普及に努めた。